

青少年教育のあり方策定事業

青少年教育のあり方検討委員会の設置

佐賀市教育委員会
社会教育部 青少年課

1 平成24年度 青少年教育のあり方に関する検討小委員会(勉強会)の経緯

- 目的 青少年センターを拠点とした新しい青少年教育の展開の検討

- 期間 平成24年8月～平成25年3月

- 委員 佐賀市社会教育委員(4名)
上野景三委員(佐賀大学文化教育学部教授)
平川哲男委員(佐賀市子ども会連絡協議会事務局長)
木原久美子委員
(佐賀市公民館長会 西与賀公民館館長)
谷口仁史委員
(スチューデント・サポート・フェイス代表理事)

1

平成24年度 青少年教育のあり方に関する検討小委員会(勉強会)の経過

- 第1回 平成24年8月1日
青少年事業現状説明 ・勉強会の位置づけと進め方

- 第2回 平成24年9月26日
佐賀市版子ども・若者白書の作成
資料 第1章 子ども・若者の成育環境と第3章 子ども・若者の安全と問題行動の説明
佐賀市ベースの数字の追求

- 第3回 平成24年11月12日
資料 第2章 子ども・若者の社会生活について説明

- 第4回 平成24年1月28日
県立高校の「不登校」と「スクールカウンセラー」、「中途退学者」、「県内高卒者の有効求人倍率」などについて、県学校教育課から説明

- 第5回 平成25年1月30日
警察現場での体験談、支援、サポート活動などについて佐賀県警本部少年課から説明

- 第6回 平成25年2月18日
佐賀市版白書の差替え、説明、これまでの資料についての意見、質疑

- 第7回 平成25年3月25日
佐賀市版子ども・若者白書 完成
第6回までの会議内容を踏まえた質疑、検討課題の抽出

2. 青少年事業の現状

① 青少年の健やかな成長を支援（活動機会の提供）

- ・子どもふれあい体験キャンプ
- ・小・中学生、親子向け短期講座
- ・海と山の体験交流事業
- ・青少年センター管理運営事業

② 困難を有する青少年の支援（非行に陥った青少年の支援等）

- ・少年補導巡回事業
- ・少年非行防止啓発事業
- ・子ども相談事業
- ・青少年有害環境点検事業

③ 社会で支える環境整備（相互関係の再構築）

- ・家庭教育講座開催事業
- ・博愛精神育成事業
- ・地域子ども教室推進事業
- ・社会教育助成補助事業
- ・子どもへのまなざし運動

3. 平成24年度 佐賀市版子ども・若者白書

第1章 子ども・若者の成育環境

第1節 子ども・若者の近年の状況

第2節 子ども・若者の教育

第3節 子ども・若者の体験活動

第2章 子ども・若者の社会生活

第1節 若者の労働

第2節 若者の就職・離職状況等と労働条件

第3節 子どもの貧困

第4節 若年無業者、ひきこもり、フリーター等の状況

第5節 キャリヤ教育への取組

第6節 国際交流等に関する状況

第3章 子ども・若者の安全と問題行動

第1節 子ども・若者の安全

第2節 犯罪や虐待による被害

第3節 インターネット等の有害環境

第4節 刑法犯少年

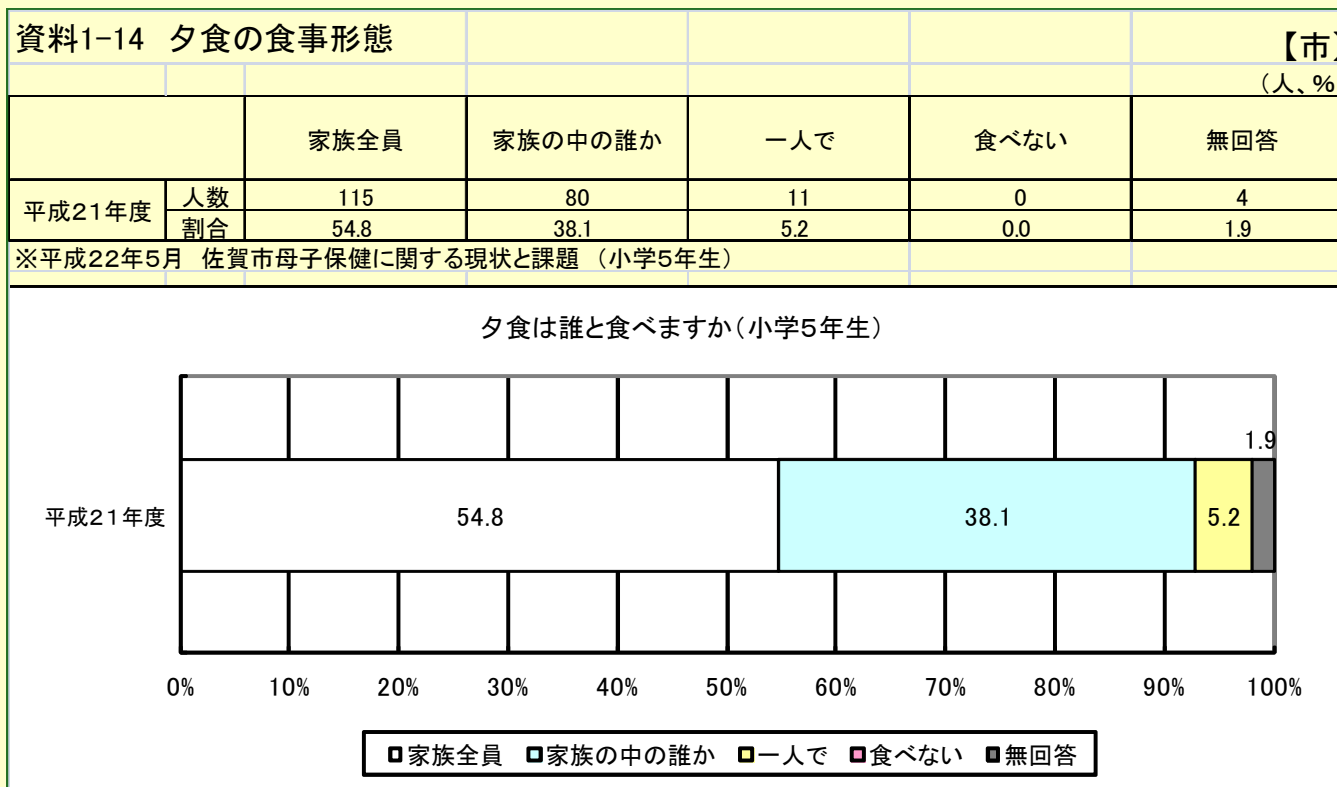
第5節 問題行動(薬物乱用、非行、いじめ、家出、自殺等)

第1章 子ども・若者の成育環境

第1節 子ども・若者の近年の状況

・子ども若者の食育

小学5年生の半数は以上は家族全員で夕食を食べるが、20人に1人は一人で夕食を食べている。



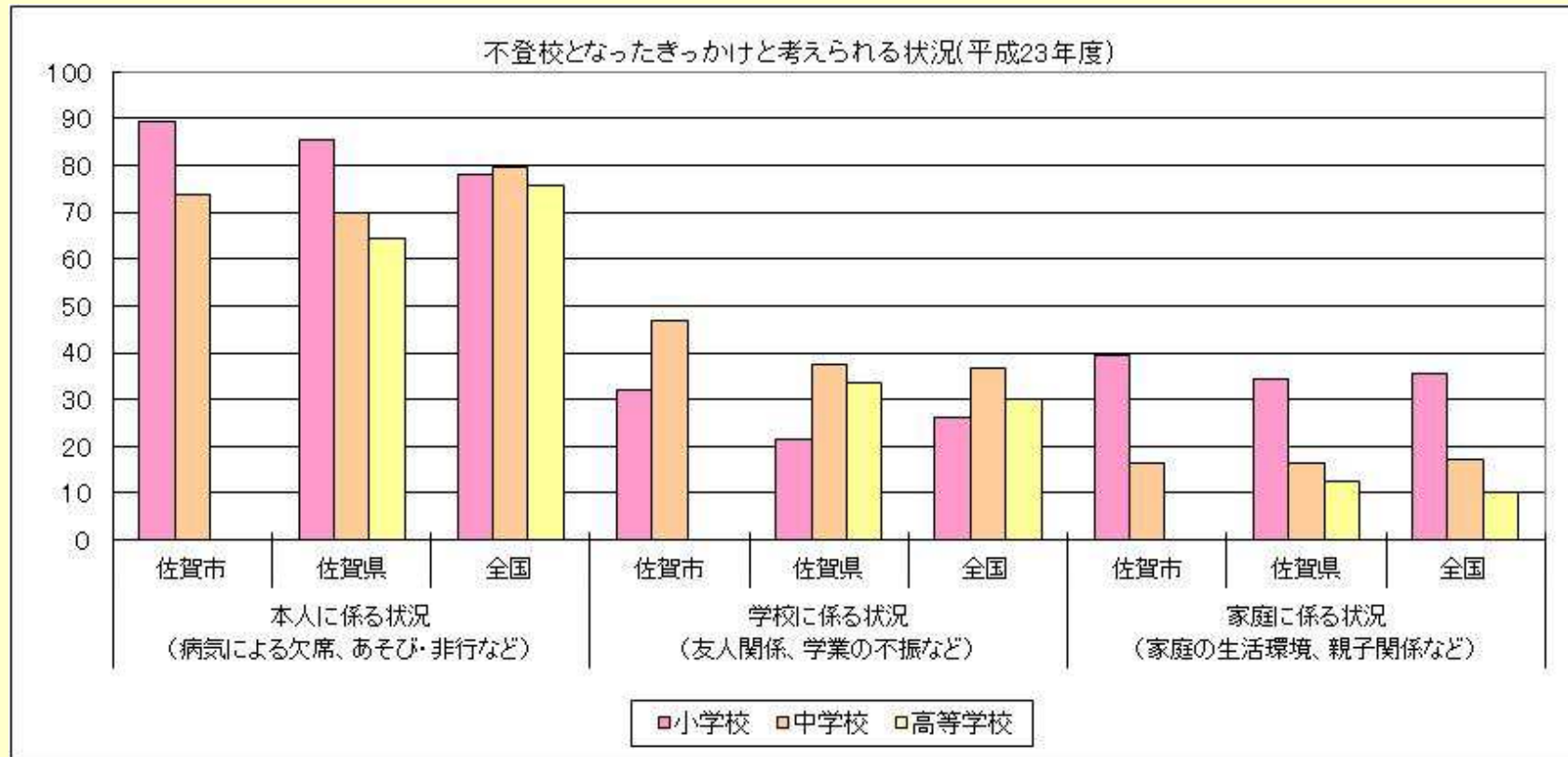
○検討小委員会での意見

・「夕食は誰と食べるか」で、5.2%が一人でと答え、そういったところから食生活の乱れがみられる。

第2節 子ども・若者の教育

・不登校になったきっかけと考える状況

病気による欠席や遊び・非行など本人に係る状況がもっとも多い。



○検討小委員会での意見

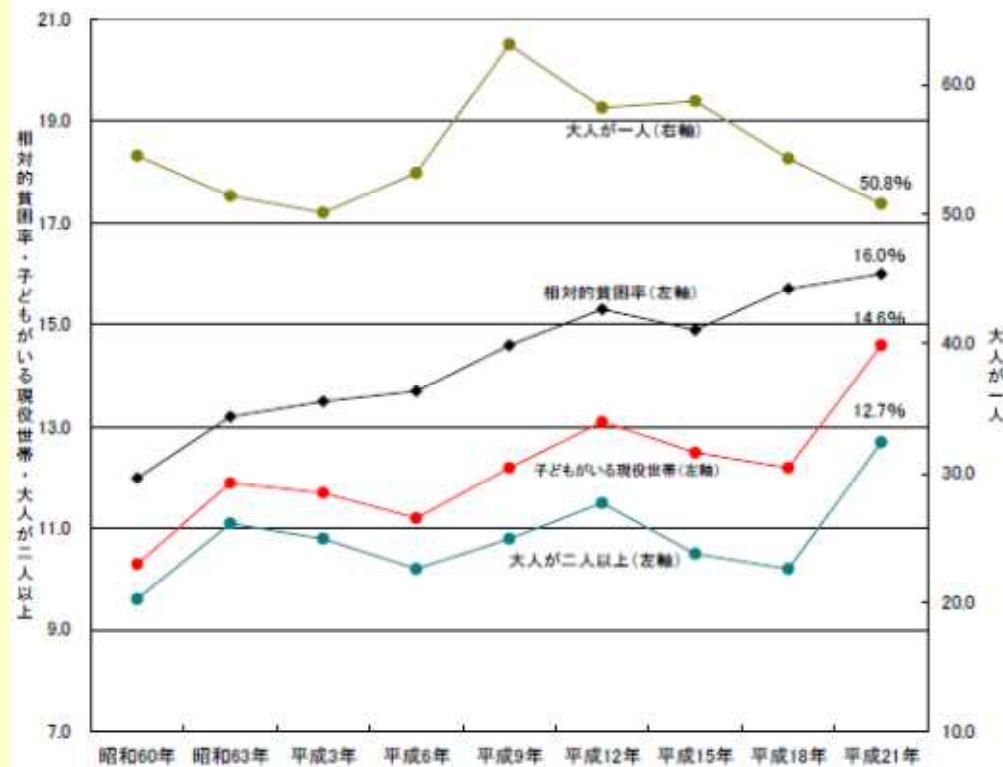
・「家庭に係る状況」が佐賀市が高いことから養育面で問題を抱える家庭が多いということがわかる。

第2章 子ども・若者の社会生活

第3節 若者の就職・離職状況等と労働条件

ひとり親家庭等は、特に経済的に困窮

資料2-17 子どもがいる現役世帯(世帯主が18歳以上65歳未満)の相対的貧困率



○検討小委員会での意見

・子どもの貧困問題は重要。一人親家庭が増化し、経済的な困難を抱えている。

経済的な困難を抱えている家庭の子どもが進学できずに、自分の進路についても希望の段階で格差ができています。

佐賀市独自のデータが必要。

第4節 若年無業者、引きこもり、フリーター等の状況

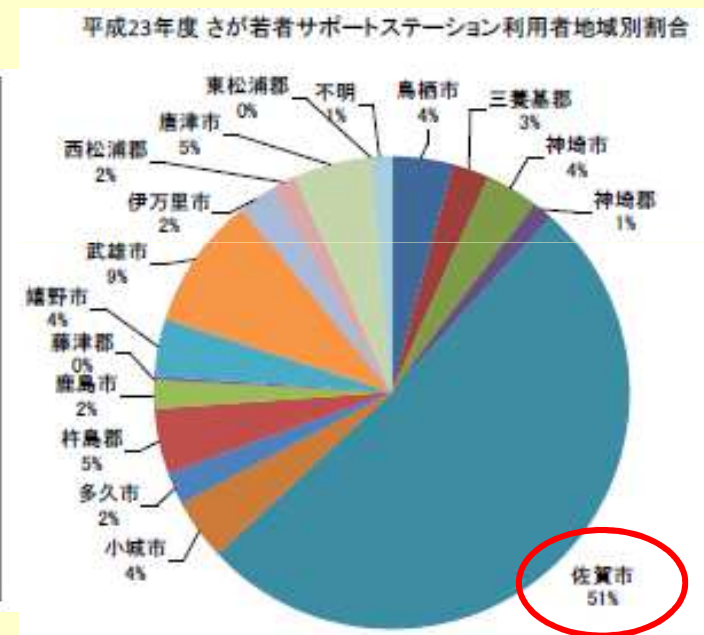
2 引きこもりの状況

「佐賀スチューデント・サポート・フェイス」

佐賀県には「さが若者サポートステーション」が設置

相談件数…上昇の傾向(H23相談件数10,621件(H19 約1.5倍))

資料2-34 さが若者サポートステーションの状況



○検討小委員会での意見

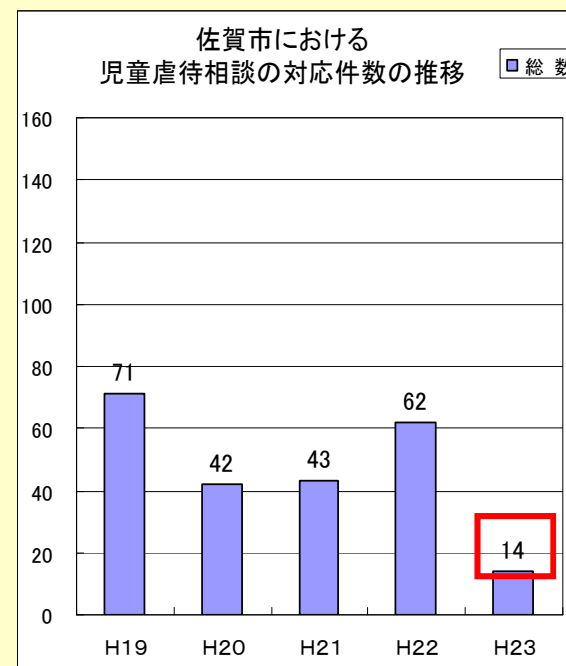
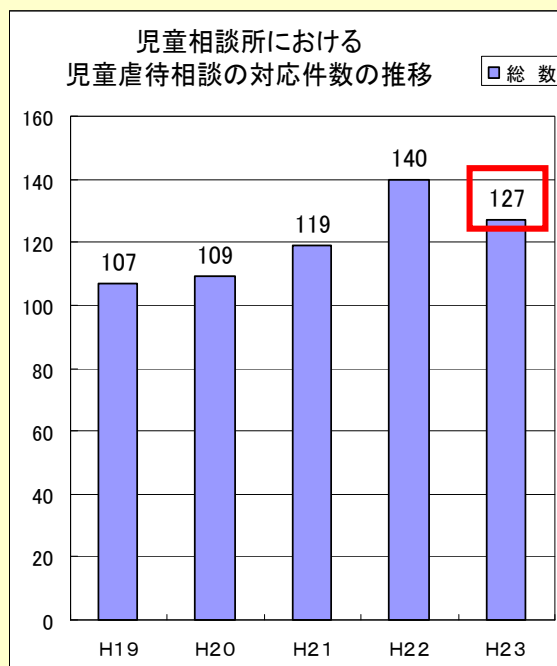
- ・佐賀県のサポステや子ども・若者総合相談センターのデータでは、相談件数の半数は佐賀市。佐賀市として独自に取り組む意味は大きい。

第3章 子ども・若者の 安全と問題行動

第2節 犯罪や虐待による被害

2 児童虐待の状況

- 相談対応件数(H23)・・・増加傾向から減少に転じる
 - 県・・・127件(前年比9.28%減)
 - 市・・・14件(前年比77.4%減)



○検討小委員会での意見

- ・虐待に関しては、相談件数が年々増加しており、対応を急がないといけない。
- ・児童虐待については、実際はもっと多いと思う。一時的に退避する、預かるところがあまりない。
- ・虐待の認知件数が全国で増えているにも関わらず、県、市ともに減っているという点が気になる。

第3節 インターネット上の有害環境

1 子ども・若者のインターネット利用状況

(1) 携帯電話所持率・・・所持率は低い

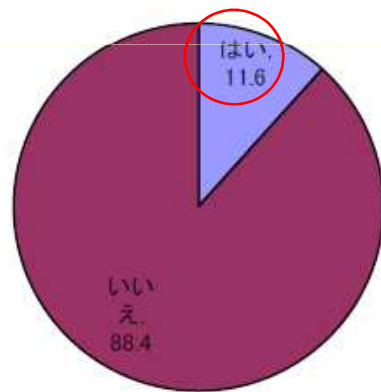
小学5年生 11.6% (H19比 5ポイント減)

中学2年生 18.2% (H19比 12ポイント減)

資料3-15 携帯電話・インターネットに関するアンケート結果
対象:佐賀市内小学5年生 平成23年3月実施

【市】

①携帯電話を持たせていますか？

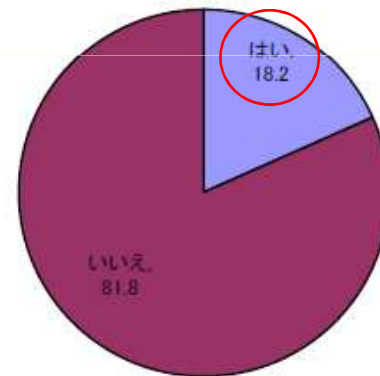


携帯電話所持率はH19(16.2%)より5ポイント減少している

資料3-16 携帯電話・インターネットに関するアンケート結果
対象:佐賀市中学2年生 平成23年3月実施

【市】

①携帯電話を持たせていますか？



携帯電話所持率はH19(30.1%)より12ポイント減少している

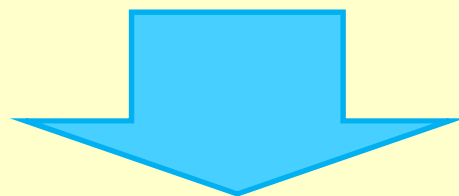
○検討小委員会での意見

- ・携帯の数字は、減少を目的としてとられている。親の携帯を貸し出している場合などがあり、借りている間に書き込んでいる。実態を把握しないと意味が無い。

4. 佐賀市における青少年教育のあり方について

【検討事項】

- ・佐賀市の青少年に必要な施策
- ・重点的に取り組む事業の整理
- ・青少年センターの役割の見直し



平成25年度

青少年教育のあり方検討委員会を設置

5.

平成25年度 青少年教育のあり方検討委員会の設置

■期間 平成25年4月～平成26年9月

■委員構成 委員8名

佐賀市社会教育委員(勉強会委員4名)

関係団体委員(警察、学校、労働、医療関係)

上野景三委員長 (佐賀大学文化教育学部教授)

平川哲男副委員長(佐賀市子ども会連絡協議会事務局長)

木原久美子委員 (佐賀市公民館長会 西与賀公民館館長)

谷口仁史委員 (スチューデント・サポート・フェイス代表理事)

桑原宏樹委員 (佐賀県警察本部 少年課 課長補佐)

松尾敏実委員 (佐賀県教育庁学校教育課指導主幹)

熊本英明委員 (ハローワーク佐賀 業務部 部長)

古賀義孝委員 (佐賀中部保健福祉事務所 保健監)

6. 平成25年度 青少年教育のあり方検討委員会の方向性

■今後の予定

○平成25年4月から9月まで、毎月1回の委員会を開催 計5回開催予定

- ・場所 青少年センター 研修室
- ・時間 18時30分～20時30分(2時間程度)

実施月	内 容	詳 細
4月25日	第1回委員会	委員委嘱、諮問、経過報告、進め方 佐賀市版子ども・若者白書の説明
5月20日	第2回委員会	事業の大枠の検討
6月	第3回委員会	基本的な方針決定、視察先の検討
7月	先進地視察	2都市
8月	第4回委員会	先進地視察報告及び具体的な事業内容の検討、 答申の中身の検討
9月	第5回委員会	あり方の取りまとめ、 答申

平成26年度 青少年教育事業に反映